

単元・教材 指導目標	指導内容	押さえない 基礎・基本 (めあて)	観点別評価規準と評価方法					
			関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
一、深まる学びへ 「春に」	詩に込められた作者の人間や自然に対する思いを捉え、自分の意見を持つ	詩に込められた作者の人間や自然に対する思いを捉え、その思いを自分と照らし合わせて考え、自分の意見を持つ。	表現の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えを持つとしている。				・印象に残る表現を抜き出し、その効果や工夫について考えている。 ・詩の中の「この気持ち」の内容を捉え、それについての自分の意見を持っている	反復や比喩などの表現に注意して読んでいる。
6 「握手」 「学びて時にこれを習ふ」 漢字 1 熟語の読み方	・ 作品に用いられた言葉やエピソードから、表現の工夫、場面や登場人物の設定のしかたなどを捉え、作品を理解する。 ・ 漢文の言い回しに注意し、語句の意味を捉えて読み、自分の意見を持つ ・ 熟語に関する知識を広げ、文や文章の中で読んだり使ったりする。	・ 会話文の言葉やエピソードに着目して、登場人物の人物像や心情を捉える。 ・ 「論語」の教材作品を読み、孔子のものの見方や考え方を読み取る。 ・ 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。	・ 作品を読み、自分の考えを深めようとしている。 ・ さまざまな作品を読んで、そこに込められたメッセージを受け止めようとしている。 ・ 熟語の読み方を理解しようとしている。	・ エピソードを読み取り発表することができる。		・ 作品の表現や展開の仕方、内容について、自分なりに観点を決めて批評している。 ・ 語句の意味を捉えて、漢文の言い回しに注意して読み、孔子の考え方をだいたい理解している。	・ 作品に使われている言葉や表現に着目して読んでいる。 ・ 文章を読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 「論語」を読んで、内容に親しんでいる。 ・ 熟語の成り立ちや、音読み・訓読みを確かめながら読んでいる。	
7 二、視野を広げて 「月の起源を探る」 言葉 1 和語・漢語・外来語 三、言葉を見つめる俳句の可能性 俳句を味わう	・ 筆者の論理の展開の仕方を捉えて評価する。 ・ 和語・漢語・外来語の使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにする。	・ 小見出しや図を参考にしながら、筆者の論理の展開の仕方を読み取らせる。 ・ 和語・漢語・外来語・混種語の性質や特徴について理解する。 ・ 俳句について理解し、表現の深さを味わう	・ 進んで文章を読み、論理の展開や内容を理解しようとしている。 ・ 和語・漢語・外来語の使い分けを理解しようとしている。 ・ 日本の伝統的な詩歌に関心を持つ。	・ 詠まれている情景をわかりやすく発表できる。	・ 俳句を実際に作る事ができる。	・ 図と本文との対応を確かめながら筆者の論理展開を読み取り、そこに表れる筆者のものの見方に対して自分の考えを持っている。 ・ 季語や句切れなど、俳句についての基礎を理解できる。	・ 論理展開を読み取る上で重要な漢語を指摘し、意味を調べている。 ・ 和語・漢語・外来語のそれぞれを理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けられている。 ・ 季語や句切れなど、俳句についての基礎を理解できる。	
「高瀬舟」	目的を持って本を読み、表現の特徴、文章の展開や場面などから文章を評価し、自分の考えを広げたり深めたりする。	・ 自分の読書生活を振り返り、今までの読書傾向を分析する。 ・ 「高瀬舟」を読み、どんなところに興味を持ったかなどを発表する。	・ 自分の読書生活に関心を持ち、読書について話し合ったり本の幅を広げようとしている。	・ 本を読んだ上で、興味を持ったことをわかりやすく発表できる。		・ 表現や場面・人物設定などに着目し、評価しながら読むとともに、読書生活について考えている。	・ 語感を磨き語彙を豊かにしている。	

	単元・教材 指導目標	指導内容	押さえない 基礎・基本 (めあて)	観点別評価規準と評価方法				
				関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
8 ・ 9	四、状況の中で 「挨拶」 「故郷」	表現の特徴を味わい、状況と人間との関わりを考える。	・表現に着目しながら詩や文章の主題について考える。 ・人物を取り巻く状況や時代背景を考えながら読み、社会と人間との関わりを考える。	・時代や状況、歴史に関心を持ち、その文章や作品が生まれた背景を考えようとしている。	・作品の感想を発表することができる。	・作品の感想を簡潔に書く事ができる。	・文章や作品から、人間や社会などについて考え、そこに描かれている状況を理解する事ができる。 ・表現の特徴に注意して朗読する事ができる。	・表現方法について理解できる。
10	・言葉2 慣用句・ことわざ ・故事成語 ・漢字2 漢字の造語力 五、いにしへの心と語らう 「万葉集」 「古今和歌集」	・慣用句・ことわざ・故事成語を理解する。 ・昔の人の思いや考え方をとらえ、古典を楽しむ	・漢字の造語力を知り、語彙を豊かにする。 ・和歌の効果的な表現や語句の使い方をとらえる。	・漢字を組み合わせることができる造語に興味を持つ ・古典に興味を抱く事ができる。	・感想などをのべる事ができる。	・表現を理解し、短文を書く事ができる。 ・課題から一つ選び、文章を書く事ができる。	・表現の特徴に注意して朗読する事ができる。	・漢字の造語力について理解している。 ・句切れ、表現技法などが理解できる。
11	「新古今和歌集」 「おくの細道」 「古典を心の中に」	・作者のものの見方や感じ方を読みとる。 ・古典作品について書かれた文章を読み、古典の世界に親しむ。	・古典はそれ以前の作品を生かして表現や描写を洗練させてきたことを知る。	・古典の表現に関心を持つようとしている。	・古典の文章に慣れ、朗読することができる。	・筆者の思いについて自分の考えを簡潔に書く事ができる。	・作者の思いをとらえ、言葉の響きやリズムを考えて朗読できる。 ・古典の言葉に触れ語感を豊かにしている。	
12	六、論旨を捉えて 「作られた『物語』を超えて」 詩「初恋」 ・書写	筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えを持つ。 北多摩書写展の課題作品	これから出会っていく「新しい世界」について自分の考えを持ち、話し合う。 ・正しい筆遣いで書き初めを書く。 ・書き初め用紙の使い方を知る。	教材文に興味を持ち、自分の考えを広げようとしている。 ・書き初めの意義を理解し、のびのびと書く。		・楷書や行書それぞれの筆遣いで、書き初めが自由に書ける。	・語句や論理の展開表現の仕方などについて自分なりに評価している。	・問題に取り組み、漢字をおおむね正しく読み書きしている。 ・長半紙に書く姿勢、筆の使い方を知る。

	単元・教材 指導目標	指導内容	押さえない 基礎・基本 (めあて)	観点別評価規準と評価方法				
				関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	七、未来へ向かって 「誰かの代わりに」	現代社会の可能性や困難、自分の生き方について考え、意見を持つ。	言葉の言い換えや具体例を用いて説明している内容を整理しながら、筆者の主張をたどる。	現代社会の特徴を知り、可能性や困難、自分の生き方について考えようとしている。			・筆者の主張を捉え現代社会や生き方に対する自分の意見を持っている。 ・抽象的な語句や論理の展開の仕方を捉え、内容を理解している。	・文章中の抽象的な語句に興味を持ち、意味や類義語などを調べている。
2	「エルサルバドルの少女ヘスース」 「わたしを束ねないで」	人間・社会・自然などについての知識を広げ、自分の考えを深める。 詩における語句の効果的な使い方や表現の工夫に注意して読み、自分の可能性や生き方などについて考え、自分の意見を持つ。	ヘスースの生き方や考え、筆者の写真や取材の仕方について、心惹かれる部分を話し合う。 詩に込められた作者の思いを読み取り、その思いを自分と照らし合わせて考え、自分の意見を持つ。	自分の読書生活に関心を持ち、読書について話し合ったり本の幅を広げたりしようとしている。 表現の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えを持つ。	歌われている情景をわかりやすく発表できる。	筆者の思いについて簡潔にまとめて書くことができる。 ・場面や気持ちの変化が効果的に伝わるよう、描写を工夫して書くことができる。	「ヘスース」の生き方などに着目して読み、人間の生き方や社会のあり方について考えている。詩における語句の効果的な使い方や表現の工夫に注意して読み、自分の意見を持っている。	比喩など、特徴的な表現に着目し、語感を磨いている。 語感を磨き語彙を豊かにしている。
3	漢字3 漢字のまとめ 送り仮名 「ある日の自分」の物語を書く	2年生までに学習した漢字に加え、その他の常用漢字のだいたいを読み、適切に使い慣れる。 送り仮名の付け方の基本を理解する。 場面や気持ちの変化が効果的に伝わるように、文章の構成や描写を工夫して書く。						・漢字の読み方や意味を確かめながら問題に取り組む、おおむね理解している。 ・送り仮名の付け方についておおむね理解している。